



親子で祭を楽しむ、一野さやかさんと長男の諒丞君と次男の佑誠君



上/にぎやかに祭りを盛り上げていた「親児の会」のメンバー
下/「親児の会」の屋台を手伝っていた会メンバーの子どもたち



樹齢400～500年といわれる境内の大きなクスノキ

紅白幕の舞台にとどろく太鼓の響き、境内を練り歩くみこしのかけ声。夏祭りを彩るいろんな音が、懐かしい夏の匂いを連れてきます。サワサワとクスノキの葉が揺れて、涼やかな風が渡ります。鎮守の森の神様に見守られながら、無邪気に過ごした祭りのひととき。誰もが忘れられない夏の思い出になることでしょう。

祭りの音



上/汗だくになって楽しそうにたこ焼きを作っていた皆さん
下/祭りを支えていた女性軍。左から佐藤廣美さん、森田恭子さん、森部博美さん

親児の会、大集合

境内の一角には、朝早くから、地域の人たちが運営する屋台が並び、忙しく準備が進められていました。スタッフの密度が濃かったのが、焼き鳥を販売していた「親児の会」のコーナー。焼き手より外野の人数が多く、おしゃべりに花が咲いていました。

同会のメンバーは、広安西小学校の保護者会の活動を通じて知り合い、「子どもたちと一緒に楽しいことをしよう」と今から7年前に会を結成。活動の内容は、地域の祭りの参加や運動会に備えての学校の整備、年末の餅つき、門松作りなどですが、いかなせん仕事で多忙な人ばかり、なので「自由

参加で、できるし」と、束縛のないルールになっているようです。それにしても、みなさんの仲の良いいこと。「ここに越してすぐは知り合いもいなくて。みなさんと保護者会で出会って以来、いつしか気の置けない仲間になりました」と澤村幸宏さん。

「こうして集まるたびに、結束力の強さを感じます。『親児の会』の名称の通り、男性のみならず女性も参加しています。すでに子どもたちは小学校を卒業してるけど、この会には卒業がないんですよ」と楽しそうに話してくれたのは、会長の山崎さん。



「親児の会」の会長の山崎さん



大きなクスノキの下で遊ぶ子どもたち



府内権現神社の拝殿。その奥が神殿です

権現さんの夏祭り

熊本市との境界に広がる広崎地区。県道熊本高森線から北上すると、住宅がびっしりと密集しています。かつては辺り一帯に、どこまでも田畑が広がっていた風景を知る人からすれば、想像だにしない景色かもしれません。

昔からここに住む人と、移住してきた人たちのコミュニティが育まれている広崎地区では、8月2日（土）に「権現さんの夏祭り」が行われ、子どもから大人まで多くの人たちが集いました。

鎮守の森と親しまれている府内権現神社。境内を覆いつくすように樹齢500年ともいわれる神木のクスノキが大きく枝を広げ、涼しい木陰をつくっています。神殿と拝殿横に舞台が掛けられ、紅白幕が祭り気分を盛り上げます。



夏祭りの実行委員長の山本さん

『子どもたちの笑顔をつくるお手伝い』と題して区長会、子ども会、広友会、府内権現神社氏子会と、5つの区が協力し合っている開催です」と話すのは、会長の山本博文さんです。祭りのスタートは午後1時30分からでしたが、すでに多くの人たちが足を運び、子どもたちは境内の中を元気に走り回っていました。

祭りの催しの一つが子ども神楽。木山肥後神楽保存会のみなさんが、舞台の袖で出番を待つ中、その日は同世代の子どもたちが観客とあつてか、ちよつと緊張気味の様子。みんな、がんばってね。



上/舞台で神楽を舞った、木山肥後神楽保存会の皆さん。右/小さな子どもみこし。子どもたちが担いで境内を練り歩きました



ちょっとそこまで/
わがまち散歩
wagahachi
sampo

vol.51
ひろさき
広崎 編

町の中で最も人口密度が高い広崎地区。ここ数年で戸数もぐんと増加し、区割りも新たに増えて5つの区で構成されています。大型のスーパーも開業し、新興住宅地としての広がりをみせる広崎地区を、ぶらりと歩いてみました。